

いつでも整形 **オナー** (栄光)

いつも整形で秀品果率がきわめて高い。良形・濃緑色・ツヤやか、シャリッと歯切れ良くおいしい。作り易く、多収穫。

抑制専用、尻太り・尻こけにならない。



特性

いつでも尻太らない。尻こけない。良形でツヤヤカ。おいしい。作り易く多収穫となる。理想の品種である。

適作型	7～8月まきのハウス抑制、主枝50%側枝50%1節当り1～2本成、成り戻し強い。
	8～9月まきのハウス抑制、主枝50%側枝70%1節当り1～2本成、成り戻し強い。
果長・とげ	100g果で21cmの中長果、とげの大きさと数は中位。
果形	頭、胸、胴、尻と全身に亘り整形で不良条件でも尻太りや尻こけにならないで秀品率が高い。
果色	ツヤツヤ濃緑色、収穫後もツヤを失わず店持ちが良い。
果皮と果肉	果皮やわらかく、果肉しまりシャリッとしてうまい。
主枝葉	太く節間は中～短い。
子づる、孫づる	太く節間は短い、発生は中位、ゆっくり伸びる。
草姿	いつもカラッと生育し、受光が効率的で整枝や収穫なども省力となる。
葉	濃緑色で小葉。
収穫量	収量構成が安定しいつも多収穫となる。

栽培のポイント

●栽植本数

ハウス抑制 7月～8月まき3.3m当り4.5株位
9月まき3.3m当り4～4.5本位

●育苗 鉢育苗では床土はリンサンを含む腐食の多い良質床土を多めにする。抑制で20日位、9月まきで25日位育苗日数の中苗定植が良いが定植時に鉢土くずれのない程度に育苗日数をとる。台木は選ばないがOS交配一輝1号やストロング一輝が良い。

●元肥 量や質は一般に準じて良い。

成育スピードの早い作型では成育の初期～中期のバランスの良い肥効がその後の草勢や品質、収穫量に影響するのでかならず施用前に土壤検定によって施肥設計をしないと良い。

●追肥は通常早目が良い。成育振りによるが、収穫しようとする果の開花から4～5日後や抑制では主枝の摘芯時等が追肥始めの目安となる。10a当たりNで1kg位を5日～7日おきに施用すると良い。

●灌水は定植2～3日前にタップリ灌水しておき定植日に土中水分の過不足のないように準備する。

定植後、乾き易い抑制では定植苗の倍程の成育をするまでは日々多めの灌水をする。

活着後は各作型とも控え目にし徒長や旺勢にすぎないように水による押さえ作りをする。

8～9月の紫外線の強い長日、高温の日中は土壌水分に加えて散水（通路散水や葉水）によって空中湿度を高めると良い。

●整枝・摘葉

小葉・徒長しにくい品種であるが成育の早い作型なので下位の込みすぎをなくすため下位3～4節の枝の早日摘除、4～5節目から1節摘芯。孫枝はより短節間で雌花率も高まるので伸長具合、込み具合により2～3節摘芯～半放任とする。摘葉は収穫盛期を過ぎる頃から古い日陰葉や込みすぎた部位を1回当たり1～2枚を限度として除くと良いが常に全体に亘り収穫果が見えかくれる程度に整える。

●夏期栽培ではアブラ虫の飛来予防にハウス回りや天窓にカンレイシャを張るとバイラスにおかされない。

※但し7月～9月の高温期(日中30℃以上夜間25℃以上)で主枝や下節位の子づる果の開花期の栄養生長期に天窓や側窓にカンレイシャを張りめぐらせて蜜蜂の飛来がないと果の肥大が充分でなく枯死果や果形が乱れ易いことがあるのでその間だけ冬～春のイチゴのようにハウス内に蜂箱をいれるか全体の天窓の20%～30%部分のカンレイシャを除いて天然の蜂が中に入るようにして授粉をさせると良い。主枝や下節位の子づる雌花の授粉が済めばあとは蜂は不要となる。

●展張後6ヶ月以上経過したビニール屋根は洗うと良い。

●最適な台木品種はオナー(栄光)にピッタリでブルーム株ゼロのブルームレス台木

※半促成や抑制作型に一輝1号

※ハウス、露地全作型にストロング一輝

耐病で省力で、作り易く、秀品、良果が多収穫となり誰もが望む良い成果のあがる大好評品種である。

